

報道関係各位

株式会社 共立総合研究所

第14回「主婦の消費行動に関するアンケート」結果

株式会社 共立総合研究所(大垣市郭町 2-25 取締役社長 森秀嗣)は、標題アンケートの結果を取りまとめましたのでご紹介します。

《要約》

東日本大震災により、主婦の景況感は再び後退。

物価観は、「物価が高くなった」が上昇。主婦の肌感覚としてはデフレの実感なし。

1. 主婦の景況感は再び後退

- ・リーマンショック以降徐々に回復基調にあった景況感が再び後退。
- ・景気が「悪くなった」との回答率は53.6%と前年から5.7ポイント増加。

2. 主婦の肌感覚としては依然物価に対してシビア

- ・「物価が高くなった」は2.7ポイント上昇し40.8%、「物価が安くなった」は5.1ポイント低下し7.6%。
- ・専門家は日本経済がデフレ状態にあると判断している。しかし、主婦の肌感覚として物価は下落しているという実感はなく、むしろガソリン、電気代等の値上がりに敏感に反応している。

3. 主婦の買物場所として「コンビニエンスストア」の利用が着実に増加

- ・利用回数が前年比最も増えている買物場所は前回調査に続き「コンビニエンスストア」。
- 一方、「商店街」は特に50歳以上の利用の減少が響き苦戦。

資料配布場所：名古屋金融記者クラブ、大垣市政経済記者クラブ

【本件に関する問合せ先：共立総合研究所 調査部 額額 TEL 0584-74-2615】

【調査概要】

1. 調査時期：2011年11月15日～21日
2. 調査方法：大垣共立銀行本支店（東京・大阪を除く）に来訪した主婦（*）791名にアンケート用紙を配布・回収
3. 有効回答者数：776名（有効回答率 98.1%）
4. 回答者属性：

年齢	20歳代	7.1%
	30歳代	18.8%
	40歳代	33.5%
	50歳代	25.3%
	60歳以上	15.3%
住所	岐阜県	58.3%
	愛知県	37.0%
	三重県	2.8%
	滋賀県	1.8%
	その他	0.1%
職業	専業主婦	15.3%
	正社員・公務員・自営業	35.6%
	パートタイマー	46.4%
	内職・その他	2.7%

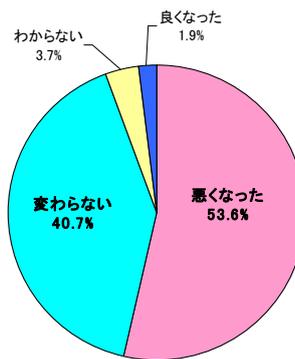
（*）本調査における「主婦」とは、既婚の女性で、子どもの有無、就業形態は問わない。

1. 主婦の景況感

「現在（2011年）の景気は、2010年と比べてどうなったと感じていますか」と尋ねたところ、「悪くなった」は全体の53.6%（前年差5.7ポイント上昇）、「良くなった」は1.9%（前年差1.3ポイント低下）となった（図表1、2）。

「悪くなった」の回答率は、全ての年齢・地域において上昇している。

図表1：主婦の景況感



(注)四捨五入の関係で、合計が100%にならない場合がある(以下同じ)。

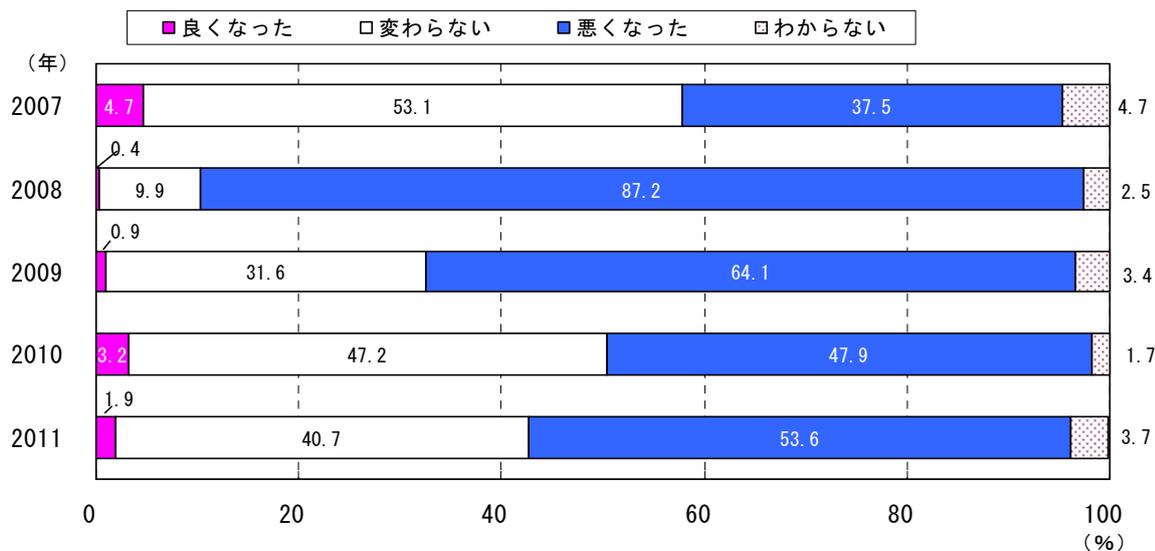
図表2：主婦の景況感（2011年）

	良くなった	変わらない	悪くなった	わからない
全体	1.9 (▲1.3)	40.7 (▲6.5)	53.6 (▲5.7)	3.7 (▲2.0)
20歳代	1.8 (▲8.0)	52.7 (▲1.0)	40.0 (▲10.7)	5.5 (▲1.8)
30歳代	4.8 (▲0.8)	54.5 (0.1)	36.6 (▲1.0)	4.1 (▲0.3)
40歳代	1.9 (0.0)	42.7 (▲10.8)	52.3 (▲7.7)	3.1 (▲3.1)
50歳代	0.0 (▲2.8)	35.2 (▲0.4)	61.2 (▲0.6)	3.6 (▲2.5)
60歳以上	1.7 (0.8)	22.9 (▲15.0)	71.2 (▲10.0)	4.2 (▲4.2)
岐阜県	2.2 (▲0.2)	42.4 (▲3.5)	51.9 (▲2.2)	3.5 (▲1.5)
愛知県	1.7 (▲3.2)	37.6 (▲11.0)	56.8 (▲11.7)	3.8 (▲2.4)
専業主婦	1.7 (▲3.9)	36.4 (▲8.8)	55.1 (▲9.1)	6.8 (▲3.6)
正社員他	4.0 (0.4)	39.6 (▲2.0)	53.1 (▲0.7)	3.3 (▲2.2)
パートタイマー	0.6 (▲1.7)	43.3 (▲8.9)	53.1 (▲9.4)	3.1 (▲1.4)

(注)括弧内は、前年差を示す。

(注)網掛けは、各属性別における最も高い数値を示す。

参考資料1：主婦の景況感の推移



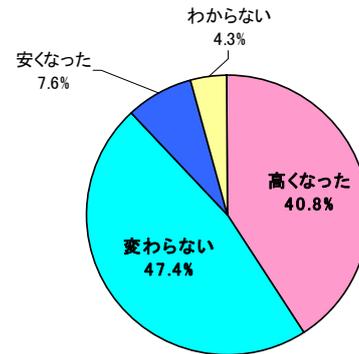
2. 主婦の物価観

「最近（2011年）の物価は、2010年と比べてどうなったと感じていますか」と尋ねたところ、「高くなった」は40.8%（前年差2.7ポイント上昇）、「安くなった」は7.6%（前年差5.1ポイント低下）となった（図表3、4）。

「高くなった」の回答率は、30歳代、60歳以上を除いた年齢層、全ての地域・就業形態において上昇、「安くなった」の回答率は全ての年齢・地域・就業形態において低下している。

専門家は、消費者物価指数がマイナスであることから、日本経済はデフレ状態にあると判断するが、主婦の肌感覚としては物価に対するシビアな意識が伺える。

図表3：主婦の物価観



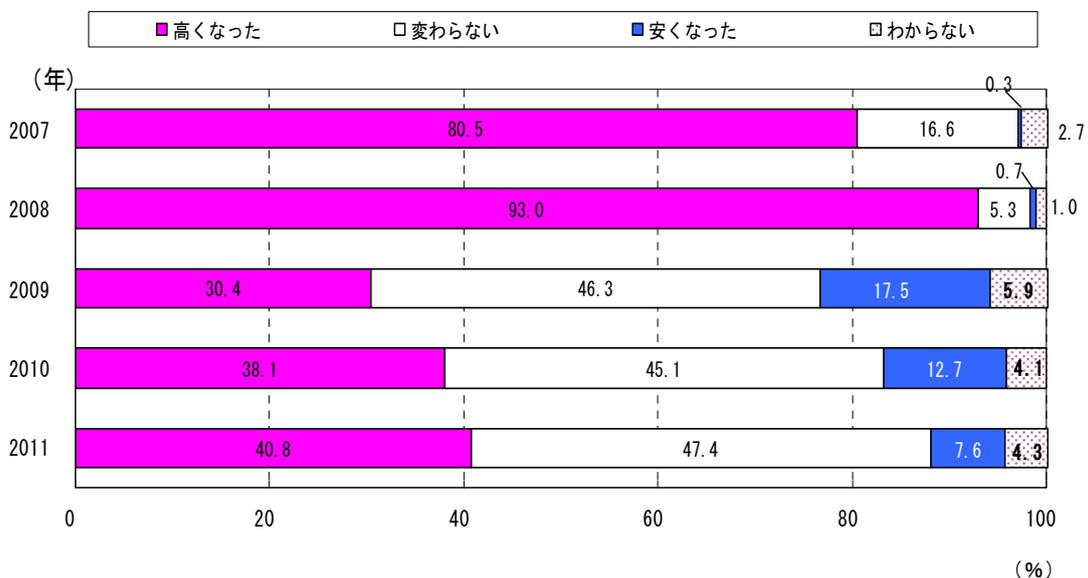
図表4：主婦の物価観（2011年）

	(%)			
	高くなった	変わらない	安くなった	わからない
全体	40.8 (2.7)	47.4 (2.3)	7.6 (▲ 5.1)	4.3 (0.2)
20歳代	38.2 (1.6)	45.5 (11.4)	1.8 (▲ 12.8)	14.5 (▲ 0.1)
30歳代	34.2 (▲ 4.7)	53.4 (9.0)	8.9 (▲ 2.2)	3.4 (▲ 2.2)
40歳代	43.1 (8.1)	50.0 (▲ 3.7)	4.2 (▲ 5.9)	2.7 (1.5)
50歳代	43.4 (3.4)	44.9 (1.6)	8.2 (▲ 5.1)	3.6 (0.3)
60歳以上	40.7 (▲ 0.7)	39.0 (5.4)	15.3 (▲ 3.7)	5.1 (▲ 0.9)
岐阜県	42.6 (5.5)	45.9 (▲ 0.5)	7.3 (▲ 5.4)	4.2 (0.4)
愛知県	38.0 (0.2)	49.1 (5.0)	8.7 (▲ 4.5)	4.2 (▲ 0.7)
専業主婦	32.2 (0.2)	51.7 (6.9)	8.5 (▲ 8.3)	7.6 (1.2)
正社員他	43.5 (8.0)	42.8 (▲ 1.3)	8.7 (▲ 7.1)	5.1 (0.4)
パートタイマー	41.7 (0.0)	50.0 (3.1)	6.1 (▲ 2.4)	2.2 (▲ 0.7)

(注)括弧内は、前年差を示す。

(注)網掛けは、各属性別における最も高い数値を示す。

参考資料2：主婦の物価観の推移

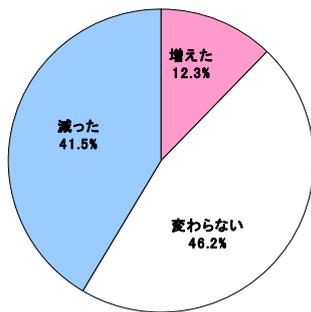


3. 家計の収支

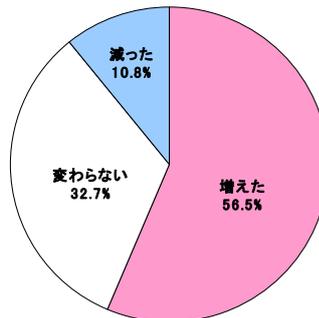
「2011年の家計収入は、2010年と比べてどうなりましたか」と尋ねたところ、「増えた」は全体の12.3%（前年差1.7ポイント上昇）、「減った」は全体の41.5%（前年差6.9ポイント低下）となった（図表5）。一方、「2011年の家計支出は、2010年と比べてどうなりましたか」と尋ねたところ、「増えた」は全体の56.5%（前年差1.1ポイント低下）、「減った」は全体の10.8%（前年差1.0ポイント低下）となった（図表6）。

全ての年齢・地域・就業形態において、収入面は「変わらない」「減った」との回答率が依然として高く、「増えた」は限定的であった（図表7）。支出面は「増えた」との回答率が約半数を占めた（図表8）。

図表5：家計の収入（全体）



図表6：家計の支出（全体）



図表7：家計の収入（2011年）

	(%)		
	増えた	変わらない	減った
全体	12.3 (1.7)	46.2 (5.2)	41.5 (▲6.9)
20歳代	33.3 (6.5)	37.0 (▲4.5)	29.6 (▲2.1)
30歳代	21.2 (5.6)	52.1 (▲4.0)	26.7 (▲1.6)
40歳代	11.6 (1.5)	50.6 (13.8)	37.8 (▲15.3)
50歳代	5.2 (▲1.5)	41.8 (11.5)	53.1 (▲9.8)
60歳以上	5.1 (0.8)	40.7 (▲2.4)	54.2 (1.6)
岐阜県	11.9 (3.2)	47.0 (5.1)	41.2 (▲8.2)
愛知県	12.2 (▲1.4)	45.6 (5.7)	42.2 (▲4.3)
専業主婦	9.3 (▲1.8)	45.8 (1.4)	44.9 (0.5)
正社員他	16.5 (7.9)	42.9 (▲1.5)	40.7 (▲6.3)
パートタイマー	10.9 (▲1.6)	48.2 (12.3)	40.9 (▲10.7)

(注)括弧内は、前年差を示す。

図表8：家計の支出（2011年）

	(%)		
	増えた	変わらない	減った
全体	56.5 (▲1.1)	32.7 (2.1)	10.8 (▲1.0)
20歳代	59.3 (0.8)	35.2 (10.8)	5.6 (▲11.5)
30歳代	62.3 (▲0.5)	30.8 (0.2)	6.8 (0.1)
40歳代	63.5 (▲1.2)	27.3 (1.7)	9.2 (▲0.5)
50歳代	49.5 (▲1.9)	37.0 (5.4)	13.5 (▲3.4)
60歳以上	44.1 (1.5)	39.0 (▲3.6)	16.9 (2.1)
岐阜県	61.3 (2.5)	29.3 (▲0.5)	9.4 (▲2.0)
愛知県	49.7 (▲5.2)	38.1 (5.2)	12.2 (0.0)
専業主婦	53.0 (▲5.7)	37.6 (7.4)	9.4 (▲1.7)
正社員他	54.8 (6.8)	34.9 (▲0.9)	10.3 (▲5.8)
パートタイマー	58.6 (▲6.8)	29.4 (3.0)	11.9 (3.7)

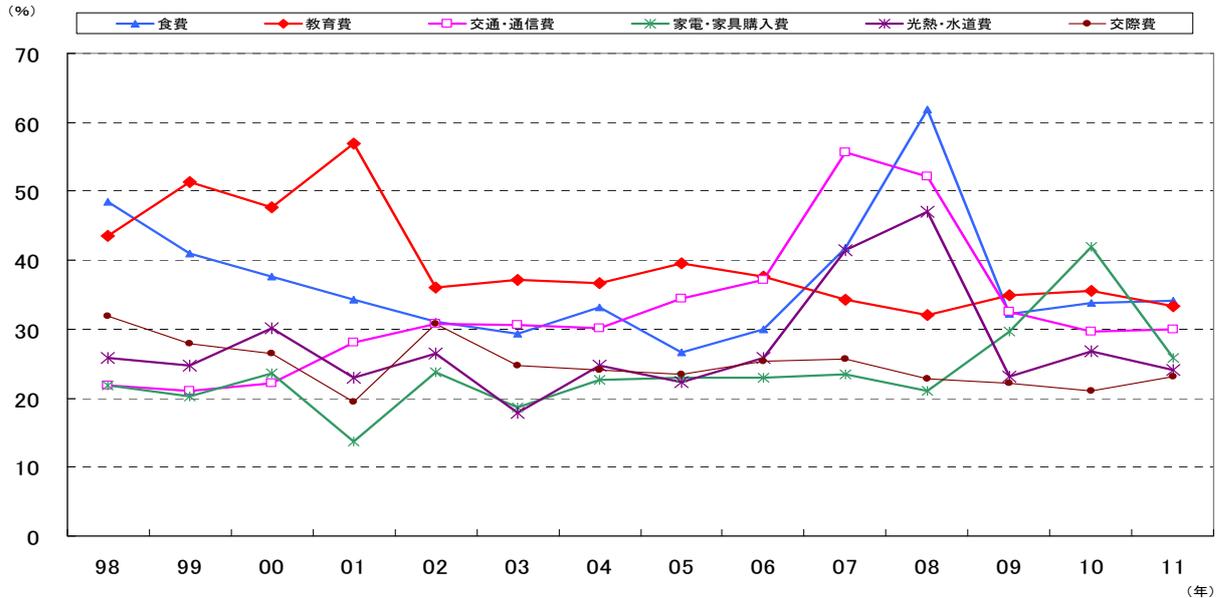
(注)括弧内は、前年差を示す。

4. 家計支出の動向

(1) 支出が増えた費目

「2011年の家計支出を考えたとき、2010年より支出が増えた費目は何ですか（あてはまるもの全て選択）」と尋ねたところ、「食費」(34.1%)が食品価格の上昇・内食ブームがあった2008年以來3年振りのトップとなった。一方、家電エコポイント制度の恩恵を受け、2010年に支出が増えた費目のトップであった「家電・家具購入費」の回答率は大幅に低下（前年差16.2ポイント低下）し4位に後退した。（図表9）。

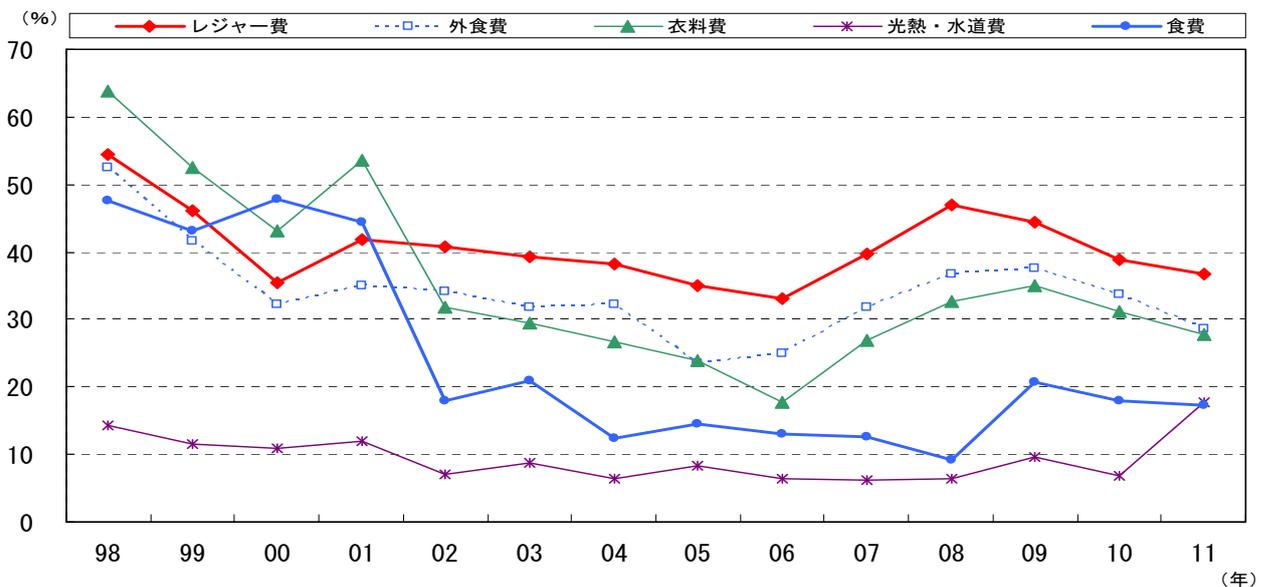
図表9：支出が増えた上位6費目（全体）



(2) 支出が減った費目

「2011年の家計支出を考えたとき、2010年より支出が減った費目は何ですか（あてはまるもの全て選択）」と尋ねたところ、1位は「レジャー費」(36.8%)、2位は「外食費」(28.7%)、3位は「衣料費」(27.8%)となった（図表10）。電力供給不足による節電意識の高まりから、「光熱・水道費」が支出が減った費目の4位（17.8%（前年差11.0ポイント上昇））に浮上したことが2011年を象徴している。

図表10：支出が減った上位5費目（全体）



5. 主婦の買物場所

図表 11 は、主婦の買物場所として、「スーパー」「コンビニエンスストア」「ドラッグストア」「百貨店」「100円ショップ」等 11 業態の利用頻度を基にした年間平均利用回数である。

主婦が最もよく利用する店は例年どおり「スーパー」で、およそ 2 日に 1 度（1 年間に 154.1 回）の頻度で利用されている。

利用回数が前年に比べて最も増えている業態は「コンビニエンスストア」であった。取扱商品の拡充、移動店舗の導入、弁当の宅配サービス等によって「コンビニエンスストア」は着実に利用者を増やしている。

一方、利用回数が前年に比べて最も減っている業態は「商店街」であった。特に、50 歳以上の主婦の利用が減少しており、買物場所として「商店街」は高齢者にも魅力が失われつつあるようだ。

図表 11：買物場所の年間平均利用回数

(単位:回/年)

	スーパー	コンビニエンスストア	ドラッグストア	複合型SC	ホームセンター	ディスカウントストア	100円ショップ	商店街	百貨店	通信販売	家電量販店
全体	154.1 (2.8)	62.0 (4.4)	39.9 (3.9)	25.4 (3.5)	15.4 (▲2.6)	18.4 (3.2)	15.5 (0.8)	10.2 (▲4.0)	6.7 (▲0.1)	8.0 (0.2)	4.7 (▲1.3)
20歳代	109.7 (3.4)	99.7 (4.6)	38.3 (5.6)	32.8 (11.5)	15.6 (▲0.7)	23.6 (6.2)	22.0 (4.9)	3.5 (3.4)	8.2 (▲2.6)	7.6 (3.9)	7.3 (1.8)
30歳代	130.0 (▲6.2)	60.8 (▲1.9)	42.8 (1.2)	25.3 (4.6)	15.7 (1.8)	20.6 (5.0)	17.3 (▲1.3)	7.5 (3.2)	3.4 (▲5.2)	11.7 (7.1)	5.5 (0.4)
40歳代	164.8 (14.9)	68.1 (14.6)	44.7 (8.2)	20.8 (▲1.1)	13.9 (▲3.6)	19.0 (3.8)	13.3 (▲0.4)	6.5 (▲2.7)	4.9 (▲1.2)	9.4 (5.2)	4.5 (▲2.0)
50歳代	165.0 (▲7.4)	56.3 (▲5.9)	37.5 (2.7)	32.4 (5.9)	16.6 (▲6.7)	14.6 (1.1)	13.5 (▲1.3)	17.2 (▲5.7)	8.9 (3.7)	5.3 (▲4.9)	4.4 (▲2.0)
60歳以上	163.6 (0.3)	39.5 (5.1)	30.5 (3.6)	19.5 (1.9)	16.8 (▲2.0)	17.2 (0.8)	18.4 (7.5)	14.4 (▲22.1)	9.7 (3.7)	3.5 (▲17.2)	3.5 (▲2.5)
岐阜県	151.7 (3.7)	62.7 (5.6)	39.9 (3.5)	25.8 (4.7)	16.4 (▲2.4)	19.5 (2.8)	16.1 (0.6)	9.8 (▲6.2)	4.8 (▲2.8)	6.5 (▲0.5)	4.8 (▲1.2)
愛知県	154.0 (▲4.3)	61.4 (2.4)	40.4 (5.9)	24.6 (▲0.6)	14.3 (▲2.1)	16.5 (3.9)	14.9 (0.2)	10.4 (▲1.4)	9.6 (4.9)	9.7 (0.5)	4.6 (▲1.3)
専業主婦	157.7 (▲0.6)	51.0 (6.1)	42.3 (7.6)	31.4 (5.8)	18.6 (0.7)	25.1 (10.7)	23.1 (5.7)	11.5 (▲1.1)	7.0 (0.1)	12.2 (0.0)	5.1 (▲1.2)
正社員他	136.8 (5.7)	75.2 (1.3)	37.4 (5.1)	25.0 (5.2)	14.4 (▲5.6)	16.2 (2.4)	11.4 (▲0.1)	10.5 (▲6.7)	6.4 (▲1.1)	7.7 (0.4)	4.8 (▲1.6)
パートタイマー	165.0 (1.3)	56.0 (8.6)	41.1 (2.0)	23.7 (1.1)	15.3 (▲1.5)	18.1 (0.9)	16.6 (▲0.1)	9.0 (▲2.8)	6.1 (0.0)	6.5 (▲0.2)	4.6 (▲1.1)
利用頻度 (注1)	2.4 (0.0)	5.9 (▲0.4)	9.2 (▲0.9)	14.4 (▲2.3)	23.7 (3.4)	19.8 (▲4.3)	23.5 (▲1.3)	35.8 (10.2)	54.3 (0.3)	45.8 (▲1.1)	77.5 (16.3)

(注1)「利用頻度」とは、「全体」において、それぞれの業態に訪れる間隔を日数単位で表したものを示す。

(注2)括弧の中の数字は、前年利用回数および前年利用頻度との差を示す。

以上